

開催報告

鳥取県ユニセフ協会設立 10 周年事業

「知ろう・学ぼう！」

～子どもの幸せのために大人たちができること～

鳥取県ユニセフ協会が今年で設立 10 周年を迎えました。12月3日（日）ハワイアロハホールで子どもの権利条約をテーマにした講演会やワークショップが開催され、関係者を含めて100名近くが参加し、子どもの人権を考える機会となりました。



■「子どもの権利条約」ワークショップ

鳥取大学の学生が中心となってユニセフ活動を行うTORICEF（トリセフ）がワークショップを開催しました。動画やカードを使って子どもの権利について考えました。

参加者の1人は「子どもに対して、親目線で考えていたが、子どもを守ろうとするあまり子どもの人権を損なっていたかもしれない。」と話されました。

鳥取大学2年生の梅田陽斗さんは「カードゲームや絵本を使って、楽しく学べるワークショップを地域で実践しています。また、新しい絵本を作ったり、楽器をアフリカへ送る取り組みなどを通じて、今後も活動を広げていきたい。」と話されました。



ワークショップの様子



TORICEF（トリセフ）の皆さん

■基調講演「人間としての子どもへの愛情と尊重」

～子どもを人間として理解し愛し、信じることはどういうことなのか？～

講師 つかもとちひろ 塚本智宏さん（札幌国際大学教授/日本ヤヌシユ・コルチャック協会理事）

1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」



講演する塚本智宏さん

約」に大きな影響を与えたヤヌシュ・コルチャック氏について塚本智宏さんに講演頂きました。

塚本さんは「**子どもは母体から産まれたときから、大人の所有物ではない。子どもは徐々に人間に成長する存在ではなく、既に人間である。**」「**成功への道を知っている大人は子どもに指示、助言をし、軌道修正させる。それは大人が見たいと望んでいる子どもではないか？…そして、その子は身を隠し、ひそかに悩んでいるのではないか？**」などのコルチャック氏の残した言葉を複数引用しながら、子どもを大人はどう捉えるべきなのか？考える講演会となりました。

ヤヌシュ・コルチャック

1878-1942 ユダヤ系ポーランド人

ナチス・ドイツのポーランド侵攻下、孤児院の院長、小児科医、教育者として、子どもを一人の人間として尊重することを訴え続けた人物。最後はトレブリンカ収容所に送られ子どもたちと共に非業の死を遂げる。



基調講演会の様子

■パネルディスカッション

「子どもの声を聴くってどういうこと」

子ども支援に携わる県内4団体と鳥取県子ども家庭部の職員が登壇し、パネルディスカッションが開催されました。

パネラーの皆さんの発言を紹介します。



パネルディスカッションの様子

★子どもの人権広場ちいさいおうち管理人 水田美世さん

「**空き家を利用して、子どものありのままを受け止める居場所づくりとして月2回開放しています。運営をしていく中で、子どもが何をしたいのか聞き、自分に関係することの決定権は自分にあるという考えを大事にしています。**」



ちいさいおうち管理人
水田さん

★子ども未来ネットワーク理事長 渡辺万里子さん

「**子どもたちが、遊びや芸術、文化に触れる機会を与えています。子どもがアートに触れた時、子どもたちの表情や動きは、子どもを一人の人間として見えた瞬間です。活動を通じて私たちはそれを体感しています。**」



子ども未来ネットワーク
理事長 渡部万里子さん

★不登校児童生徒、ひきこもり青少年の親の会「つながろう会」事務局 渡邊奈津美さん

「不登校の事情は様々。子どもや家族が悩みを抱え込んで追いつめられる状況は今も変わっていません。孤立を防ぎ悩みが話せる定例会を毎月実施しています。不登校の子ども達が作成した【不登校の子ども権利宣言】を是非読んでほしいです。」



「つながろう会」事務局
渡邊奈津美さん

★チャイルドラインうさぎのみみ代表 楠本知恵美さん

「電話やチャットを通じて、子ども達が安心して気持ちを伝える場所を作っています。決してアドバイスはせず、子どもが持っている能力を信じて、一步を踏み出せるようなお手伝いを続けています。」



チャイルドラインうさぎのみみ
代表 楠本さん

★鳥取県子ども家庭部家庭支援課 西村耕一さん

子ども基本法の成立を受け「行政は今後、子どもから直接意見を聞いて、政策を設計していくことになります。それが当たり前になっていくのではないのでしょうか。」



県子ども家庭部 西村さん

★鳥取県ユニセフ協会の事務局 奥谷仁美さん

「子どもの権利条約はユニセフ活動の指針でもあります。まずは身近にいる子どもたちの声を聞き流したり、否定するのではなく、子どもの感性を感じ取って、言葉を受け止めることから始めてほしい。」

*企画終了後、座談会が設けられ、パネラーの皆さんと参加者、スタッフで意見交換を行いました。感想交流をしたり、子どもを取り巻く環境や、今後の支援のあり方について語り合いました。



子どもの権利条約は、世界中の国が守らなければいけない「子どもの権利」についての約束事です。子どもは一人の人間として、生きること、育つこと、守られること、参加すること（意見を表明する）の権利が認められています。まずは身近なところから、子どもへの接し方を見直してみましょう。また、各地域では子ども支援に携わる団体が活動を続けています。全ての子どもたちが尊重される社会を目指して、皆さんで協力していきましょう。